

「我が国における国際人口移動の動向に関する考察—近年の外国人人口の動向を中心に—」

……………佐々井司（国立社会保障・人口問題研究所）
（鈴木 透 記）

第19回厚生政策セミナー 「多様化する女性のライフコースと社会保障」

国立社会保障・人口問題研究所では「厚生政策セミナー」を毎年実施しており、これまでは社会保障部門と人口問題部門のテーマを交替で設定してきた。しかし人口問題研究所75周年（2014年8月）、社会保障研究所50周年（2015年1月）、国立社会保障・人口問題研究所20周年（2016年12月）を迎えるのを契機に、2014～16年度は人口・社会保障部門が合同で「人口減少社会を支え続ける社会保障の挑戦」を共通テーマに行うことになった。初回の今年度は「多様化する女性のライフコースと社会保障」をサブテーマに、2014年10月31日（金）、日々谷コンベンションホール（東京都千代田区）において開催された。

セミナーは森田郎所長の開会あいさつに始まり、二本の基調講演が行われた。まず筆者が「人口減少日本：女性と家族の変容」と題して既存の人口データ、研究所の将来人口・世帯推計および実地調査結果を紹介した。次いで大沢真理・東京大学教授が「逆機能を解消して機能強化を」と題する講演を行い、雇用の非正規化と所得再分配に関する諸問題を指摘した。

引き続き四人のパネリストによる講演が行われた。まず川口章・同志社大学教授は「労働市場における男女格差の現状と政策課題」と題し、男女賃金格差の動向とその要因に関する分析を踏まえ、政策課題を指摘した。大石亜希子・千葉大学教授は「セカンド・シフトを超えて：家庭内労働を巡る諸側面」と題し、男女の無償労働時間の国際比較などを通じて様々な分析的問題を指摘した。本研究sofの阿部彩・社会保障応用分析研究部長は「女性のライフコースの多様性と貧困」と題して女性（特に母子世帯）の貧困問題を指摘し、林玲子・国際関係部長は「日本女性と移動：国内人口移動と国際人口移動」と題して女性の都市集中や国際結構移動の動向について報告した。

この後、森田所長をモデレーターとしてパネル討論が行われた。論点は男女の意識の変化やジェンダー平等指標から高齢者の政治的パワーに至るまで多岐に及んだ。最後に金子隆一副所長が閉会のあいさつを述べて終了した。
（鈴木 透 記）

第27回人口センサス会議

第27回人口センサス会議（The 27th Population Census Conference）は、11月5～7日の日程で、ANCSDAAP（Association of National Census and Statistics Directors of America, Asia and Pacific）の主催により、新宿の京王プラザホテルで開催された。人口センサス会議は1971年にホテルで第1回会議が開催され、以後1年半～2年に1回のペースで世界各国において開催されている。今回の会議は、全部で8つのセッションから構成され、各国の2010年ラウンドのセンサス実施状況や、次期センサスに向けての取組等について多数の報告が行われた。会議には、アジアを中心とする各国のセンサスの実施主体である統計局のメンバーや人口学の研究者等が参加し、活発な議論が交わされた。そのなかの1セッション“Analysis of Census Results”では、小池が“Spatiotemporal Analysis of Population Dynamics Using Small Area Statistics”というタイトルで、東京圏にお

ける地域メッシュ別の自然社会別人口変化の推定とその空間分析に関する報告を行った。

(小池司朗 記)

2014年人文地理学会大会

2014年人文地理学会大会が、2014年11月8日～10日(10日は巡検のみ)、広島大学東広島キャンパス(広島県東広島市)において開催された。今回の大会は、地理科学学会の2014年度秋季学術大会との共催であった。そのため、従来から実施されている特別研究発表(4件)と一般研究発表(口頭(52件)・ポスター(7件))の他にシンポジウム「日本企業のグローバル化と若者の海外就職」が行われた。また、緊急企画として2014年8月に広島市北部で発生した土砂災害に関連したポスター発表があった。

上記シンポジウムをはじめとして人口関連分野についての多数の報告以外にも、地域人口を考える上で重要となる市町村合併や産業、社会保障、防災といった問題を地理学的な立場から検討した多くの報告があった。以下、人口関連の主な発表タイトルを記す。

「東京大都市圏における都市空間変化のホット／コールドスポットの抽出と地図化」

……………若林芳樹(首都大学東京)・小泉 諒(首都大学東京)

「非大都市圏の相対的に高い出生力の要因と問題—柏崎市を例として—」…高橋眞一(新潟産業大学)

「2010年の国勢調査における「不詳」の発生状況—5年前の居住地を中心に—」

……………小池司朗・山内昌和(国立社会保障・人口問題研究所)

「「上海ドリーム」とその現実」……………阿部康久(九州大学)

「日本のビジネス・エコシステムのグローバル化と若者の海外就職・起業」……………中澤高志(明治大)

「アジア大都市における日本企業の集積とサービスの担い手」……………楯塚賢太郎(龍谷大)

「日本人若者が働くバンコクは「天使の都」か」……………丹羽孝仁(神戸大・研)・中川聡史(神戸大)

「海外求人情報からみたグローバル人材の特徴」……………由井義通(広島大)

「海外就職にみられるジェンダー差と地域差」……………神谷浩夫(金沢大)

(山内昌和 記)

特別講演会

ロバート・マッケイ教授「IPUMS-International: 100カ国の センサス・マイクロデータ統合の挑戦と好機」

2014年11月10日(月)午後3時よりロバート・マッケイ教授(ミネソタ大学人口センター、IPUMS-Iアンバサダー)による「IPUMS-International: 100カ国のセンサス・マイクロデータ統合の挑戦と好機」と題する特別講演会が開かれた。マッケイ教授はミネソタ大学の歴史学部で、主としてラテンアメリカにおける歴史人口学の研究に従事するかたわら、1990年代からは世界各国のセンサス・データを収集するIPUMSプロジェクトの研究代表者として、審査された研究者に貸し出すことの出来るセンサス・データの拡張に大きな役割を果たしてきた。

今回の講演は、100カ国以上のセンサス・データを収集・普及させる上での課題、IPUMSのデータを使用する際のコツ、といったIPUMS-Internationalの活動の紹介が主なテーマであった。1999